

我が国のジャーナルの振興に向けた J-STAGE 中長期的戦略(改定)の具体的な施策について  
(審議まとめ)

➤ はじめに

J-STAGE 事業は、令和 6 年 5 月に公開した「我が国のジャーナルの振興に向けた J-STAGE 中長期戦略(改定)」(以下「本戦略」という)に沿って運営を行っている。本戦略における施策の実現に当たっては、サービスの利用要件や利用規約の見直しを行う必要がある。具体的な要件を検討するため、令和 6 年度から令和 7 年度にかけて J-STAGE 運営アドバイザー委員会(以下「本委員会」という)を設置した。

➤ 本戦略の施策および取り組むべき事項

本委員会では、本戦略の事業ロードマップで実施予定とした以下の内容について、具体的な施策の議論を行った。

- ・ J-STAGE 投稿審査システムの運用および利用要件の改定
- ・ 掲載情報の品質向上のためのメタデータ整備
- ・ 全文 XML 化推進

➤ 議論の方向性

・J-STAGE 投稿審査システムの運用および利用要件の改定

本戦略では、J-STAGE 投稿審査システムは国際競争力を有するものを対象とするなど運用の方針の見直しに取り組むべき事項としている。そこで、公正な審査および持続可能な運営に必要な運用、利用要件を整理し、新たに基本的な機能を備えた投稿審査システムの構築予定をふまえて、利用要件と運用開始時期について議論を進めることとした。

・掲載情報の品質向上のためのメタデータ整備

本戦略では、閲覧者の利便性や論文の二次利用を促進させるため、識別子の付与など、メタデータの充実に取り組むべき事項としている。そこで、整備すべきメタデータ項目を整理し、メタデータの入力促進策を含め、掲載情報の品質向上に資する運用について議論を進めることとした。

・全文 XML 化推進

本戦略では、J-STAGE が XML 形式を基礎とする機械可読なジャーナル出版のプラットフォームとなるように、これまでの蓄積を活かしてシステムを拡充することに取り組むべき事項としている。そこで、学術情報流通の観点から全文 XML 掲載をすべき対象

範囲、最低限求める登載形式の要件を整理し、システムおよび周辺のツールの改修予定をふまえて、J-STAGE の登載要件の内容とその運用開始時期について議論を進めることとした。

➤ 各施策に対応する制度、要件の策定

議論の成果として、取り組むべき事項に対する以下の詳細な実行方針を確立した。

・J-STAGE 投稿審査システムの運用および利用要件

J-STAGE 投稿審査システムは国際競争力を維持あるいは高めるサービスであり、その効果的な利用が見込める外形的に判断可能な要件とする。ジャーナルの質の判断基準として、国際的に通用し、一般的に認められた JCR (Journal Citation Reports) への収録有無を新たに具体的な要件として加える。また、サービスの効果的な利用のための要件として、一定の投稿数があることとし、年間平均(※)40 件以上の投稿数があることを要件に明記する。令和 9 年 9 月末をもって現行運用を終了し、令和 9 年 10 月より新要件に基づく運用を開始する。新運用では、利用要件の充足状況を毎年審査し、利用誌を決定し、サービスを提供する。

※募集の前年、前々年の平均値とする。

・登載情報の整備とメタデータ拡充

閲覧者の利便性の向上や論文の二次利用の促進に資する観点から、必須メタデータ項目を新たに下記のとおり定め、当該項目の入力を推奨する。さらに、入力の促進を目的として、J-STAGE 上で各資料のメタデータ入力率(充足率)の表示を行う。登載情報の品質向上を図るため、J-STAGE 利用規約の改定を行う。

- ◇ 著者名またはグループ著者名
- ◇ 所属機関名
- ◇ 著者識別子
- ◇ 著作権記述
- ◇ ライセンス記述
- ◇ 抄録
- ◇ キーワード

・XML 形式出版およびメタデータ、本文の機械可読化の推進

世界標準に則った電子ジャーナルプラットフォームとなるべく、資料種別「ジャーナル」に対し、令和 11 年度中にカレント公開記事を全文 XML 形式で登載することを求める。それに伴い、PDF 登載を必須とせず、また全文 XML と PDF との時間差登載を許容する。全文 XML ファイル※登載の最低限の形式要件を下記のとおり新たに設ける。

- ◇ 全文が、原則として、front 要素(記事及び掲載誌のメタデータの記述),body 要素(本文), back 要素(付録、謝辞、引用文献、用語一覧等), floats-group (図、表、数式、写真(動画含む)等)から構成されていること
- ◇ body 要素(本文)が、セクションの階層構造から構成されていること
- ◇ floats-group のタイトルがタグ付けされていること
- ◇ floats-group の各要素タグがそれらを参照する本文の近くに配置され、もしくは本文と各要素の間に記事内部リンクが張られていること
- ◇ 図表等のデータ形式について、表は値をテキスト形式で構造化して表現されていることが望ましいが、画像ファイルによる公開も可
- ◇ 数式のデータ形式は、MathML または TeX で記述することが望ましいが、画像ファイルによる公開も可

※JATS(Journal Article Tag Suite)に準拠して J-STAGE が指定する DTD(Document Type Definition: 文書型定義)に従って作成された XML データのことをいう。

➤ おわりに

投稿・査読・出版の一体的な運用、機械可読な構造化文書の提供、メタデータの一層の整備という、21 世紀の学術論文のオンライン刊行プラットフォームとして不可欠な条件を J-STAGE が備えることを期待する。しかし、これらの機能を十全に実現するためには、J-STAGE の運営者である JST と、学術雑誌刊行の実務を担う発行機関が円滑なコミュニケーションを構築し、前者が適切な技術的・制度的支援を行い、後者がその学術雑誌刊行の主体としての責任を自覚し、学術振興のための電子ジャーナル刊行事業を継続することが不可欠であることを付言する。

## 付記資料

### J-STAGE 中長期戦略(改定)の実施に係るこれまでの取組について

#### 1. J-STAGE 中長期戦略(改定)(令和6年5月)

J-STAGE 事業の方向性は、「我が国のジャーナルの振興に向けた J-STAGE 中長期戦略」(平成 31 年 3 月)において定め、事業を推進している。策定から 5 年が経過し、定めた取り組み事項もおおむね達成したことから、外部有識者による J-STAGE 運営アドバイザー委員会(令和 5 年 8 月設置)にて今後 5 年程度先を見据えた運営方針をまとめ、「我が国のジャーナルの振興に向けた J-STAGE 中長期戦略」を改定し、令和 6 年 5 月に公開した。

#### 2. J-STAGE 運営アドバイザー委員会(令和6年11月26日、第1回)

J-STAGE 中長期戦略(改定)について、改定の具体的な要件、運用を検討するため、外部有識者による委員会を設置。学術情報流通、ジャーナルおよびデータベース運営に関する実務上の知識を有する者等により委員を構成した。本委員会において、中長期戦略(改定)に基づく全文 XML 登載標準化の対象および要件、J-STAGE 投稿審査システムの利用要件および登載情報の品質向上に関する現状について整理を行った上で、J-STAGE 中長期戦略(改定)の実施に向け、議題をとりまとめる。

#### 3. J-STAGE 運営アドバイザー委員会(令和7年3月3日、第2回)

J-STAGE 投稿審査システムの運用について、サービスの目的に沿って議論を行い、外形的な要件の可否や利用条件の公平性、ベーシック投稿審査システム(仮称)の新設を中心に制度の見直しを行った。委員の意見を中間とりまとめ案に反映し、委員への確認を経た上で J-STAGE 投稿審査システムの運用案、利用要件について利用機関からの意見募集を行うこととなった。

#### 4. 意見募集(令和7年4月4日～21日)

J-STAGE 投稿審査システムの運用案、利用要件案の策定に向け、J-STAGE 利用機関を対象として、「J-STAGE 投稿審査システム」の運用および利用要件の改定案」に対する意見募集を実施した。

#### **5. J-STAGE 運営アドバイザー委員会(令和7年7月1日、第3回)**

意見募集などの意見を元に再度議論を行い、J-STAGE 投稿審査システムの新運用、新利用要件および施策実施に向けたスケジュールを策定した。掲載情報の品質向上を目的として、メタデータ項目の整備、入力状況の表示と運用方法、全文 XML 掲載必須化について議論を行った。

#### **6. J-STAGE 運営アドバイザー委員会(令和7年11月7日、第4回)**

全文 XML 掲載必須化について、学術情報流通の動向をもとに全文 XML 掲載の最低限の要件を中心に議論を行った。委員の意見をとりまとめ案に反映し、確認を経た上で、全文 XML 掲載必須化の対象案と掲載要件案について利用機関からの意見募集を行うこととなった。掲載情報の品質向上とデータ流通の向上を目的として、メタデータの必須入力項目を拡充し、発行機関毎に抄録、識別子等のメタデータの入力率を表示するための改修に向けた議論をとりまとめた。

#### **7. 意見募集(令和7年12月26日～令和8年1月19日)**

J-STAGE 利用機関に対し、「全文 XML 推進に関する J-STAGE 掲載要件の改定案」に対する意見募集を実施した。利用機関が全文 XML 掲載に必要と考えている具体的な改善案等の情報を収集することができた。今後、これらの情報はサービス企画やシステム開発を検討する際に活用していく。

#### **8. J-STAGE 運営アドバイザー委員会(令和8年3月3日、第5回)**

意見募集などの意見を元に再度議論を行い、全文 XML 推進に関する J-STAGE 掲載要件、施策実施に向けたスケジュールを策定した。

令和 6、7 年度科学技術情報発信・流通総合システム運営アドバイザー委員会

委員名簿

(敬称略、五十音順)

委員長

土屋 俊 千葉大学 名誉教授

委員

蔵川 圭 大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 教授

黒沢 俊典 医学中央雑誌刊行会 理事

坂本 亘 岡山大学 学術研究院先鋭研究領域(資源植物科学研究所)  
教授  
日本植物生理学会「Plant & Cell Physiology」アドバイザー

福林 靖博 国立国会図書館 利用者サービス部 科学技術・経済課 課長

古澤 泰治 東京大学大学院 経済学研究科 教授

堀尾 喜彦 帝京大学 先端総合研究機構 特任教授

※各委員の所属・職は令和 8 年 3 月 31 日時点

令和 6、7 年度 科学技術情報発信・流通総合システム運営アドバイザー委員会  
スケジュール

第 1 回委員会

日時: 2024 年 11 月 26 日(火) 9:30~12:00

場所: JST 東京本部 8階会議室1

議題:

- 1 投稿審査システムサービスについて
- 2 その他

第 2 回委員会

日時: 2025 年 3 月 3 日(月) 14:00~16:00

場所: JST 東京本部 5階会議室 3

議題:

- 1 投稿審査システムサービスについて(運用案、利用要件案)
- 2 全文 XML 掲載の施策について
- 3 メタデータ項目の整備について
- 4 その他

第 3 回委員会

日時: 2025 年 7 月 1 日(火) 9:30~12:00

場所: JST 東京本部 5階会議室3

議題:

- 1 投稿審査システムサービスについて(運用、利用要件の策定)
- 2 メタデータ項目の整備について
- 3 全文 XML 掲載の施策について
- 4 その他

第 4 回委員会

日時: 2025 年 11 月 7 日(金) 9:30~12:00

場所: JST 東京本部 B1 階会議室 1

議題:

- 1 全文 XML 掲載の施策について(運用、要件案)
- 2 メタデータ項目の整備について(整備状況運用表示等)
- 3 その他

第 5 回委員会

日時: 2026 年 3 月 3 日(火) 10:00~12:00

場所: JST 東京本部 8階会議室

議題:

- 1 全文 XML 掲載の施策について(運用、要件の策定)
- 2 委員会とりまとめ(総括)

以上